

学校運動部活動と地域スポーツクラブの教育的機能に関する研究

～指導者と生徒の意識調査結果に基づいて～

鶴田 涼（生涯スポーツ学科 学校スポーツコース）

指導教員 柴田 俊和

キーワード：運動部活動 地域スポーツクラブ 教育的機能

1. 緒言

昨年度の先行研究と同様に、運動部活動の教育的機能としての顧問教師、地域スポーツクラブの監督・コーチそれぞれの意識や目的が、生徒・選手にどのように浸透しているのか、どのようなことを生徒・選手に継承し、それに生徒・選手はどのように理解しているのかを研究の焦点とする。その中で「顧問教師・監督の指導の目標、考え方」と「生徒・選手の受け止め方」に着目して、運動部活動における顧問教師と生徒の意識、地域スポーツクラブにおける監督・コーチと選手の意識を明らかにし、それらを比較して学校の運動部活動における教育的機能の在り方を示唆する。

2. 研究方法

本研究の対象は、大阪府中学校2校と、滋賀県・大阪府のクラブチームに所属している、指導者と生徒である。調査結果をSPSS T. TEST を使用して処理し、比較考察の資料とした。

3. 結果と考察

1) 顧問教師と生徒の意識

顧問教師は「人間形成機能」を強く意識し、「スポーツ機能」をあまり意識しないで生徒に指導していることが明らかになった。

一方、生徒は運動部活動に対して、「スポーツ機能」と「人間形成機能」の両面を期待していることが明らかになった。この結果から、顧問教師と生徒の間で意識の違いがみられた。つまり顧問教師は、「人間形成機能」を継承させようとしているが、生徒は顧問教師の考えをあまり理解していないことになる。

2) 監督・コーチと選手の意識

監督・コーチは、「スポーツ機能」を強く意識して指導を行っているが、「人間形成機能」も少なからず意識して指導している。

選手は地域スポーツクラブに対して、「スポーツ機能」を強く意識していて、「人間形成機能」はあまり意識していない。この結果から、監督・コーチの意識と選手の意識は一致していると考えて良いだろう。つまり監督・コーチが選手に「スポーツ機能」を継承させようとしている考えを、選手は理解していることになる。

4. まとめ

顧問教師と生徒では意識の違いはあるが、運動部活動は生徒の人間形成に良い影響を与えている。しかし、生徒は「技能、記録、挑戦」からの観点で、「スポーツ機能」を期待しているが、顧問教師はその期待に応えられていない。したがって、顧問教師は「技能、記録、挑戦」の面の「スポーツ機能」を意識して指導していく必要がある。

地域スポーツクラブでは、監督・コーチと選手の意識は一致しているので、かなり強い「スポーツ機能」を獲得している。しかし、監督・コーチ、選手共に「人間形成機能」を意識していないので、「人間形成機能」はあまり獲得できていないと考える。

今後、運動部活動と地域スポーツクラブが上手く連携を図っていけば、課題となった「スポーツ機能」の充実に上手く対応できると考えられる。

引用・参考文献

中村敏雄(2009)部活・クラブ論 創文企画